地底妖精

地底妖精

作　市原佐都子

登場人物

・ユリエリア
・女
・女児１
・女児２
・モグラ
・ブリーフの男

出演者は二名（俳優ＡとＢ）
ユリエリア・女・女児１と２を俳優Ａが演じ、モグラ・ブリーフの男を俳優Ｂが演じる。
俳優Ｂはブリーフ一丁の姿でモグラの着ぐるみを着用。

舞台は都会にある雑居ビルの地下深く、地底にある空間。
あるいは一人の人間の頭の中。

1　妖精パーティー

ユリエリアの家。
薄暗く、天井から黒い芋がぶら下がっている。
テーブルと椅子がある。
壁には壁掛け時計ほどの大きな腕時計が掛けられている。

定例の妖精パーティーが行われており、たくさんの妖精が集まっている。
テーブルの上には黒い芋料理（スイートポテト、芋チップス、芋の天ぷら）とペットボトルに入った濁った湧き水が並べられている。
ユリエリア、芋料理の乗った皿を持ち妖精たちの隙間を縫うように登場。
観客はユリエリア以外の妖精の姿を見ることができない。
また妖精の声はユリエリアにしか聞こえず、観客はユリエリアの声と動作からそこにいるとされる妖精の姿を想像する。

白幕、客入れ中よりダウン。
妖精の影絵が見えている。

ユリエリア、皿をテーブルに置き談笑しているオベロンの姿を見つけ近寄って行く。

白幕、この辺りでアップ。（予定）

ユリエリア　あ　ちょっとごめんなさい（オベロンの談笑相手の妖精へ）

ユリエリア、お辞儀する。

ユリエリア　オベロン様　ようこそ　いらっしゃいました　お目にかかれて光栄ですわ　むさくるしいところですが　楽しんでくださいね　地上にはきれいなところがたくさんあるのに　申し訳ないですわ

オベロン　なにを言うのだ　素晴らしい住まいだ　ユリエリアのエリア

ユリエリア、爆笑する。

ユリエリア　さすが　さすがとしか言いようがないですわ　ナイスギャグですわ

オベロン　いやいや冗談抜きに　本当に素晴らしいよ　この芋がなんともおしゃれではないか

ユリエリア　そうでしょ　華やかでしょ　ありがとうございます　ほっといても生えてきて一年中クリスマスみたいなの　たくさん食べてくださいね

ユリエリア、スイートポテトをオベロンにすすめる。

ユリエリア　やだ　遠慮しないで　お腹すいてないんですか

オベロン　あ　ああ　いや

ユリエリア　さあ　どうぞ　どうぞ　おならの心配もご無用です　さあ

ユリエリア、スイートポテトをオベロンの口元に持っていく。

コボルト、オベロンの背後から飛び出してくる。

コボルト　ユリエリア！

コボルトの身長は一四〇センチほどである。

ユリエリア　まあ　コボルトさん！　隠れてたのね　びっくりしちゃったじゃない

ユリエリアとコボルト、抱擁。

ユリエリア　どう楽しんでる？　ごめんなさいね　お芋しかなくって　なにぶん　こんなじゃない？　ほっといても生えてきて　一年中クリスマスみたいなの

コボルト　ぜんぜん大丈夫じゃ　おいしいよ

ユリエリア　ありがとう

コボルト　本当においしいよ　こんなにおいしいなんてびっくりじゃ

コボルト、テーブルの上の芋料理を食べる。

ユリエリア　そうなの最初は　ちょっと癖があるかなって思うんだけど　食べれば食べるほどおいしくなっていくの　中毒性っていうのかしらね　パクチーみた

いなことよね　でもお芋ばっかりで喉がかすかすになっちゃうでしょ　ごめんなさいね

コボルト　大丈夫じゃ

コボルト、咳をする。

ユリエリア　やだ　ほら　乾燥してるでしょ

コボルト　大丈夫だよ

コボルト、咳が止まらない。

ユリエリア、テーブルの上の湧き水の入ったペットボトルを手にコボルトに差し出す。

ユリエリア　これ飲んで　水はあるの　湧き水　けっこうおいしいわよ

コボルト　いいよ　気をつかわないでおくれ

ユリエリア　いいから　お水飲んで　楽になるわ

コボルト、顔色が青くなり震えている。

ユリエリア　え　なんか顔色が変よ　どうしたの　さあ　飲んで　お水よ　ねえ　お水！　ウォーター　お水　一口飲んで　飲めば楽になるわ　お水　ねえ　お水

ユリエリア、必死でコボルトに湧き水を飲ませようとするがコボルトは応じない。

ユリエリア　え　のろい？　ねえ　お水を　飲んでよ

コボルト　のろい　のろいじゃ

ユリエリア、震えるコボルトの手に無理矢理ペットボトルを握らせようとする。

コボルト　いらないんじゃ！

コボルト、ペットボトルを払いのける。

周りにいる妖精達の視線がユリエリアとコボルトに注がれる。

ユリエリア　ごめんなさい　大丈夫よ

ユリエリア、そそくさとペットボトルを拾う。

コボルト　ごめん　ユリエリア　このコボルトを許しておくれ

ユリエリア　いいのよ　私こそ　ごめんなさい　無理強いして

間。

コボルト　わしはちょっと早いが　もう帰るよ　なんだか今日はおかしいみたいじゃ

ユリエリア　え　そんなあ　まだ始まったばかりなのに

コボルト　家に帰って　キーウィをスライスしたのを枕元に置いて眠ろう　そうすれば大丈夫じゃ

ユリエリア　病気が治るおまじないね　あれをやれば頭がすっきりするって噂だものね　私はやったことはないけれど　なにぶん　こんなでしょ　キーウィなんてないし　お芋をスライスしても　すっきりって感じはでないものね　しかもこのお芋ね　食べてもなかなかおならが出ないのよ　ガスがね　お腹の中でたまってく一方なの　変なお芋でしょ　やだ　我慢なんかしてないわだけどガスなんて出ないほうがありがたいわよ　ここにいるみんながみんな芋食ってブーだと臭くってしょうがないじゃない

ユリエリア、爆笑する。

コボルト　もう帰るよ

ユリエリア　え　だけど　私もっとコボルトさんといろいろお話ししたかったのにな

コボルト　さよならユリエリア　今日は会えて嬉しかったよ

ユリエリア　さよなら

コボルト、足早に去る。
ユリエリア、寂しそうにコボルトが去るのを見送る。
男の妖精達が腕相撲をしており人だかりができている。
ユリエリア、人だかりを見つけ駆け寄って行く。
マックとキャルデコンの試合中。

ユリエリア　わー　ファイト　ファイト

マックの勝利。

ユリエリア　ひゃー　やっぱりマックね　だってキャルデコンの腕を見てよ　細い　私でも勝てそうだわ

ユリエリア、自分の腕を見せる。

ピッキー　ユリエリアの腕だって細いわ
ユリエリア　うふふ　そうね私の腕も細腕ね
ミンミン　そうよそうよ　うらやましい限りよ
ユリエリア　ミンミンの腕だって
ピッキー　そうよ　ミンミンの腕も細いわ
クロトクリン　私のは？（腕を見せる）
ユリエリア　クロトクリンの腕も細いわ
ピッキー　私の腕はどうかしら（腕を見せる）
ユリエリア　ピッキーの腕も細いわね

女の妖精がたくさん集まりユリエリアに自分の腕を見せている。
ユリエリア、それぞれの腕を見ながら。

ユリエリア　ピンクリンの腕も細いわね　あ　ウンデーネの腕も細いわ　フロリンダの腕も細いわね　アリエッティの腕も細いわね　ブロンデールも！　オーロラも！　うーん　どれも細いわね　でも私ってけっこう力持ちなのよ　だから女の子だけどキャルデコンになら勝てちゃうかもね

キャルデコン、飛び出してくる。

キャルデコン　なんだと！
ユリエリア　まあ
キャルデコン　僕に勝てるだって？　もう一回言ってみろ　今なら許してやってもいいぞ
ユリエリア　な　なによ　キャルデコンになら　勝てると言ったのよ
キャルデコン　なに言ってるんだよ　僕が女の子に負けるわけないだろ
ユリエリア　私とっても力持ちなのよ
キャルデコン　じゃあユリエリア　勝負だ
ユリエリア　いいわよ　望むところよ

ユリエリア、腕相撲をする態勢になる。

ユリエリア　おりてきなさいよ
マック　キャルデコン　それはやめておいたほうがいい
キャルデコン　え

マック、キャルデコンになにか耳打ちする。

ユリエリア　なによ　なにさ
マック　ケンカはやめよう　ケンカの口調で話してもなにも始まらないさ
ユリエリア　そうね　穏やかな口調を心掛けましょう
マック　そうさ　な
キャルデコン　うん　ごめん　悪気はないんだ　ただ
ユリエリア　いいの　こちらこそ　ごめんなさい
キャルデコン　ごめ
ユリエリア　いいんだってば！　ばかばか　楽しんでね

ユリエリア、その場を去り、下を向いて一人泣く。
ティタニア、スイートポテトを見ている。
ユリエリアとティタニア、ぶつかる。

ユリエリア　ごめんなさい　あ　ティタニア！
ティタニア　あ　ユリエリア！　どうしたのよ　泣いているの？
ユリエリア　ううん　違うの
ティタニア　大丈夫？
ユリエリア　ええ　大丈夫よ　目がごろごろするだけ　きっとカビの胞子が入ったのね
ティタニア　無理しないでね　私でよかったらいつでも相談にのるわ
ユリエリア　ありがとう

間。

ユリエリア　どう　楽しんでる？
ティタニア　え　ええ！　このパーティー最高ね！
ユリエリア　そのスイートポテト最高よ！　私つくりながら味見にかこつけていっぱい食べちゃったわ　最高傑作なの！　食べて頂戴
ティタニア　え　ええ
ユリエリア　ほら　あなた甘いの大好きでしょ　大丈夫よ　ほら　あの　おならなんて出ないから

ティタニア　え　ええ　でも食べようかどうしようかなあ　って迷ってたの
ユリエリア　これね　芋とこの湧き水を混ぜて　三日間　置いておくのね　そしたら色が薄いグレーから　きれいな黒になるの　それでね　発酵してるのかしら　ねばねばして糸をひくの　それを混ぜて　よいしょよいしょって一個一個　丸めたのよ
ティタニア　いらない
ユリエリア　え
ティタニア　だって　ドレスが入らなくなっちゃうわ　あはは
ユリエリア　何言ってるのよ　とっても軽やかでしなやか　うらやましい限りよ
ティタニア　うふ　そうかしら　ありがとう
ユリエリア　やっぱりフェアリー体操　かかさずやってるの？
ティタニア　そうよ　（咳をする）
ユリエリア　大丈夫？　ごめんなさい　ここ空気悪いでしょ　お水飲む？
ティタニア　いらない
ユリエリア　え　じゃあなにかいるものあるかしら
ティタニア　なにもいらないわ
ユリエリア　……
ティタニア　うふふ　だって　よく考えたら太っちゃうもの　うっかりちゃーん
ユリエリア　うっかりちゃーん　でも　何言ってるの　とっても軽やかでしなやか　うらやましい限りよ
ティタニア　ごめんなさい二回同じこと言わせて
ユリエリア　いいのよ　私二回同じこと言うの好きなの　私もやったわよ　フェアリー体操　ティタニアに教えてもらった　ウォールポーズ　鈴のポーズ　バトン体操でしょ　それから
ティタニア　アイエクササイズも
ユリエリア　アイエクササイズね
ティタニア　そうよ　からだだけでなく　うつくしさって　目が大事なの
ユリエリア　そうなのね　やっぱり目　目って大事なのね　目は見るものだけど　見られるものだものね

ローザとピッコリーナの話し声がする。
「あたらしいおまじない」と言っている。

ユリエリア　あ　あたらしいおまじないですって！　私にも教えて頂戴な（ローザとピッコリーナにむかって）　ティタニア　一緒に教えてもらいましょうよ
ティタニア　そうね

ユリエリアとティタニア、ローザとピッコリーナのところへ近寄って行く。

ユリエリア　恋のおまじないね

ローザ　そうよ　ピッコリーナが　ハーモニアにきいたんですって　ハーモニアっていま彼がいるんですって　その彼はハーモニアにぞっこんなんだけどなんでもこのおまじないのおかげなようなの

ユリエリア　ハーモニアが！　そうなのね　うらやましい限りだわ

ピッコリーナ　そうなのよ　うらやましい限りだわ

ユリエリア　もっとも　ハーモニアの場合あの歌声があるでしょだから　おまじないなんてなくても　あの歌声で男の子はぞっこんになっちゃうわよね

ローザ　うらやましい限りだわ

ユリエリア　そうね　うらやましい限りだわ

ティタニア　うらやましい限りだわ

ユリエリア　うふふ　なーに言ってるのよ　お嬢様たち　私たちだって十分に魅力的なのよ

ティタニアとローザとピッコリーナ、笑いながら「そうね」「言えてる」などと言い合う。

ユリエリア　そうでしょ

ティタニア　でもおまじないっていうのは不思議な力をくれるものよね

ユリエリア　そうなの　おまじないのパワーって　きっと考えるってことが大事なのよ　おまじないの効果って　どれだけ　考えたかってことで変わる気がするわ

ピッコリーナ　じゃあ　さっそくいくわよ

ユリエリア　やってみるわ

ピッコリーナ　このおまじないはね　紙とペンが必要なの

ユリエリア、紙とペンを用意しピッコリーナの言う通りに書く。

ピッコリーナ　まず△を書くでしょ　そしてそれを囲むように○　そしてさらに　それを囲むように□　そして四方に　○　□　△　▽　って書くの　そして一番最初に書いた△のなかに好きな男の子の名前を書くの！

ティタニアとローザとピッコリーナ、ユリエリアに「だれだれ」「書いてよ」などと言い騒ぐ。

ユリエリア　やだ　いやよ　恥ずかしいわ　私はみんなが帰ってから一人で書くわ

ピッコリーナ　えー　いま書いてよ

ユリエリア　一人じゃなきゃ　恥ずかしいわ　一人じゃなきゃ恥ずかしくてできないわ

ローザ　えー

ティタニア　あ　もうそろそろ　お開きね　明けの明星が消える頃だわ

ユリエリア　やだ　もうそんな時間なのね　ここにいるといつが朝なのか　夜なのかも感じられないから　わからなくなってしまって

ティタニア　そうね　でも私ここにいても十分なんでも感じられるわ　私にはわかるのパーティーは終わりよ

ユリエリア　ねえ　時計ってあるじゃない？　知ってる？

ティタニア　名前は知ってるわ

ローザ　なにそれ

ピッコリーナ　とけい？

ユリエリア　そう　時計　ずっと動いてて　腕に巻き付けてそれの通りに生きるのよ　心臓の音は時計の針の音に似てるって言われているわ　だから　心臓が時計みたいになってて　生きているってことだけでもっと時間が分かればいいのに

ティタニア　ふーん

ピッコリーナ　よくわかんない

ローザ　え？

ユリエリア　あなたたちは時計なんていらないかもしれないけど　私少し時計が教えてくれたらなあって思ったりするのよ　ここには　太陽も月も　匂いも　カビの匂いしか　ないでしょ　なんにもわからない　だから　時計が必要なのかなって

間。

ティタニア　とにかくもうパーティーはお開きの時間なの　私が分かるからいいのよ

ユリエリア　そうなのね　始まったばかりのような気がするけど　終わりなのね

ユリエリア、プラスチックの容器を用意し椅子の上に立つ。

ユリエリア　みなさーん（手を叩く）　今日はありがとう　楽しい時間ってすぐ過ぎ去ってしまうのね　さっき始まったばかりのようなのに　明けの明星がもう東の空に消えかかり　さあさあ妖精さんたちもうパーティーは終わりですよとささやいている時間です　ティタニアが教えてくれました（ティタニアを示し微笑む）　私ってここの生活が長いものだから　鈍感だから　みん

な　これお土産よ（芋料理を示す）　お芋ばかりで申し訳ないのだけど　持って帰ってくださいね　もちろんおならは出ないからご安心を　ここにお土産ボックスがあります（プラスチックの容器を示す）　これに入れて持って帰ってくださいね　みんなにいきわたるように譲り合いながら持って帰ってくださいね　おいしいけど欲張っちゃダメよ　お家で今日のパーティーのことを思い浮かべながら食べてくださいね　さようなら

ユリエリア、たくさんの妖精が帰って行くのをそれぞれに挨拶をして見送る。

ユリエリア　さよなら　さよなら　胸いっぱいの愛を！

ティタニア　地球いっぱいの愛を！

ユリエリア　わー　えーっと　宇宙いっぱいの愛を！　うふふ　さようなら　さようなら！

ユリエリア、一人になる。

ユリエリア　はあ　本当に外では明けの明星が東の空に消えかかっているのだか　まだまだ夜になったばかりのような気がするわ　ティタニアは嘘を言ってるんじゃないかしら　どうせみんな

間。

ユリエリア　妖精さんはやさしい心が大好きよ！

ユリエリア、先程のおまじないの紙に名前を書く。

「松浦遊」

2　地底妖精ユリエリア

ユリエリア、観客を見る。

ユリエリア　どう　私が見えますか　私の名前はユリエリア　のっけから騒がしくて申し訳ないです　定例パーティーだったの　たくさんの妖精が集まって目に

も鮮やか　歌のような話声が耳に心地よかったのではないかしら　ちょっと羽音がうるさかったかな　と言っても　見えなかった人のほうが多かったんじゃないかしら　この現代社会に生きる皆さんだものね　見えなかった人は最近の自分の行いを振り返ってごらんなさい　精神的にどこか不安定ではありませんでしたか　お友達と大喧嘩　ライバル出現でどうも彼としっくりいかない　お父さんやお母さんに叱られてガックリ　そんなときにあなたは人に対してやさしい思いやりの気持ちや感謝の気持ちをどこかに置き去りにして　ひどく相手を恨んだりしたのではないでしょうか　あの人が憎らしい　どこかへ行っちゃえばいいのに　彼の前でくっさいおならもれればいいのに　刑務所に放り込まれればいいのに　車にひかれてぺっちゃんこになって死んじゃえばいいのに　なんて心の中で思いませんでしたか　そんなあなたの前に妖精さんがいたとしても見ることはできません　それから怠け者や嘘つきの人のことも妖精さんは嫌いです　そうゆう人には見えません　見えなければあなたには　ない　ということになるでしょ　妖精なんていないと言うでしょ　そんなみなさんのために　いま何が行われていたのか　私ユリエリアがご説明いたしましょう　今夜は定例の妖精パーティーでした　パーティーのホストの順番はみんなに回ってくるのよ　順番が回ってきたらご馳走を用意して自分のお家にみんなを招くわ　まず妖精王オベロンに挨拶　ちょっと威張り屋だけどとてもお人よしなので妖精からは人気があります　外国のコインを集めるのが趣味　その陰に隠れていたのは山奥に住む　妖精コボルト　姿かたちは美しくないけれど元気で働きもの　木の実や薬草のこと　病気の治療や健康のことに詳しいの　コボルトは芋料理に舌鼓を打っていました　コボルトさんがあんまりむせるものだから　お芋に水分をとられて喉がやられちゃったんだって湧き水を勧めたんだけど　とうとう飲んでもらえなかったわ　妖精さんたちは私の家で出される水は絶対に飲まないの　かび臭いし　からだに良くないという噂があるようなの　そしてここのお芋料理も絶対に食べないの　妖精さんはとても警戒心が強いのよ　畑で獲れるお芋なら妖精さんだってむしゃむしゃ食べるんだけど　雑居ビルの地底で獲れる黒い芋なんて得体が知れないでしょ　コボルトさんだけは今日食べてくれたわね　妖精さんたちみーんなすました顔してたけど内心はらはらしながら見ていたんじゃないかしら　病気や健康のことに詳しいコボルトがお芋を食べて平気でいるのだから大丈夫　きっとコボルトさんはみんなに証明するために率先して芋料理を食べてくれていたのでしょうけど　顔色は真っ青でガタガタ震え冷や汗タラタラ　ゴホゴホむせて　おならはブーブー　あ間違えた　おならは出なくて　それでみんなやっぱり芋料理は食べちゃいけな

いんだって　妖精さん全員が再認識する結果に終わったのでした　そしてこれは後日談ですけれど　これは未来の話　コボルトは明日の朝　死体となって発見されます　これは二重に驚くべきことです　妖精さんは普通死ぬと　すっと消えます　死体は残らないのです　死ぬというより消えるという言葉がしっくりきます　だって妖精さんはタンパク質ではできていないからです　でもコボルトは死体となっていました　妖精さんたちは気味悪がっていました　枕元には「あの芋のせいではない」という手紙がわざわざ残されていました　まるでこの芋のせいであると言いたいように　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　そして男の子の妖精たちは腕相撲で力比べをしていたわね　大盛り上がりよ　マックとキャルデコンがちょうど試合をしていたの　マックに勝利の女神は微笑んだわ　私はそりゃそうよって思ったわ　だってキャルデコンの腕なんてとっても細いからマックに敵うわけがないでしょ　私は女の子たちと腕の見せ合いっこしてたの　そしたら　私の話を聞いてたキャルデコンはむきになって私に勝負を挑んできたの　マックがやめとけって言って　二人はこしょこしょ話を始めたわ　私そんなことされると涙が出てきちゃって　男の子ってどうしてときどきあんなに意地悪なのかしら　きっと二人はこう言っていたのよ　ユリエリアは僕らと違うんだからどんな力をもっているかわかりゃしないぞ　腕を折られることだってあるかもしれない　気を付けろ　って　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　ティタニアはスイートポテトを食べずにがん見していたわ　ティタニアは妖精の国の王妃様　だけどとっても気さくなの　私にもとても優しくしてくれるわ　だけどティタニアも　お水を飲まなかったわ　スイートポテトも食べない　おならなんて出ないのに　太っちゃうから　なんて言ってたけど嘘よ　彼女の言葉をそのままに受け取ると間違いよ　本音と建て前ってものをあのティタニアからは感じるの　とっても優しくしてくれるけど本当はどう思っているのか分かったものではないわ　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　ローザとピッコリーナは　最近彼と熱々のハーモニアから教えてもらった恋のおまじないを私とティタニアに教えてくれたの　それがこれよ　こうやって　○や△や□を書いてここの真ん中に好きな人の名前を書くのよ　そうすると相手と熱々になれるらしいわ　みんなの前で好きな人の名前なんて書けるわけねえだろ　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　みなさんも試してみてね　っていうことをしていたらもう　明けの明星が消える頃　消える前にパーティーを終わらせるのが決まりなの　ティタニアは地底にいても　明けの明星が消える頃が分かったみたい　みんな待ってましたとばかりに大急ぎで帰って行ったわ　持って帰ってねって言ったのに　お土産も持たずに　他のパーテ

ィーならみんな取り合うようにお土産ボックスに料理をつめて帰るのに
妖精さんはやさしい心が大好きよ！　きっと今頃外では風の精が妖精さん
たちのパーティー用の白いレースの洋服をさらってあちこちに吹き散らし
ているのでしょう　（ブー）　あ　おならじゃないわよ

ユリエリア、舞う。

ユリエリア　季節外れの雪がときどき降るでしょ　ほら　ときどき　あの　かったい氷みたいな雪　ヒョウ？　夏なのに　ばばばばばって　異常気象で　ときどきニュースになってるじゃん　あれはすべて妖精さんたちのレースの服なのです　妖精たちは今頃裸でそれぞれのお家へ小さな羽で帰っています

ユリエリア、舞う。

ユリエリア　妖精さんはおしゃれですから洋服を着ますけれど　裸だって全然かまわないのです　妖精さんにとって洋服を着る理由は素敵だから　パーティーだから　ということしかなく　洋服とはおしゃれを楽しむこと以外のなにものでもないのです　裸で恥ずかしい理由なんてないのです　あなたには信じられないのではありませんか　洋服とは外に出るために必ず着なければいけないものではないですか　おしゃれよりもそういう意味のほうが強くありませんか　いくらおしゃれと言われても裸で歩けますか　見せたくない　ひとつやふたつがありませんか　私もあります　恥ずかしいのですこの感覚　妖精さんたちにはないのです　この感覚は　タンパク質のせいではないかと妖精さんたちは噂しています　肉　というものが　恥ずかしいものだと

間。

ユリエリア　それでは　私は妖精ではないのか　どうしてあなたに見えているのか　私は人間なのか　妖精なのか　私ユリエリアはいったい何者なのかということを　私ユリエリアがご説明いたしましょう　まず妖精の国には時計というものがありません　宇宙のリズム　月や太陽をからだで感じながら　自然の流れで生きているのです　そうしていれば　時計なんていらないのです　時計とは人間のものなのです　人間以外の生き物が時計をつかうのを見たことがありますか　私は時間がわからない　私は時計を必要としている　ということは私は人間なのか　というと△です　悪い妖精のことは知

っていますか　私の母はなんにでも化けることができるバルコンという悪い妖精です　私の母は人間の美女に化け人間の男子高校生を騙し誘惑しました　単なる暇つぶしのいたずらでしたが　母バルコンもその男子高校生に恋をしてしまいました　それはそれは純愛でした　男子高校生の純粋な心がバルコンの悪い心を溶かしたのです　そして二人は交尾をしバルコンは私を妊娠したというわけです　妖精さんは交尾によって生まれません　妖精さんは自然の霊気の中から生まれてくるのです　例えばギリシャ悲劇のヴィーナスが海の泡の中から生まれてくるのに似ています　交尾という肉っぽいものではなく自然の霊気によってなんとなくぼんやりと生まれるのです　なので妖精のからだは人間のからだのようにタンパク質で構成されているわけではあません　当然　卵子や精子のやりとりはないわけですバルコンの膨れたお腹によって　妖精界はパニックとなりました　たいへんバルコンのお腹がカエルみたいに膨れているわ　なんだって　それってまさか妊娠したってこと？　そんなことあるわけないだろ　きもちわるいわ　なに言ってんだ妖精は妊娠しないんだぜ　バルコンはあの人間と交尾をしたのよ　ここ交尾？　交尾ってどうやるの？　きゃーはしたないわえピンクリン知ってるか？　知らないわよ　知ってんだろ　もうやめてわーわー　わーわー　たたた大変よ　とうとうバルコンが踏ん張って股の間から赤い肉の塊を出したわ　血もいっぱい出てたげー　血？　肉？タンパク質だ　人間だ　わーわーわーわー　だけど　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　私の父は妖精が見えるほどにきれいな心を持った男子高校生でした　しかもひどい美青年でした　妖精さんたちは私の父のことが大好きになり　結果産まれてきた私ユリエリアのこともどうにか受け入れようということになっているのです　父は人間なので大学受験の年になり受験勉強のために人間の世界へと帰って行きました　母はその後何日も何日も　四六時中泣いていたそうです　そして突然すっと消えました　寂しくて死んだのでしょう　二人の愛は紛れもなく純粋なものでしたが　それが故　未熟だったのでした　私ユリエリアはみなしごの妖精と人間のハーフというわけです　地底に住んでいるのは　私がやはり純粋な妖精ではないからなのです　みんな私を受け入れたいという気持ちと　自分たちと違うものへの恐れから受け入れられないという気持ちとでここに隔離しているのです　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　とはよく言われることですがなんでも受け入れることとは違うのです　やさしいと自分たちの身を守るということは同時には難しいのです　そういう矛盾を世界は抱えているわけです　妖精さんはやさしい心が大好きよと言いつつも　自分たちの仲間に悪い妖精がいるというのも矛盾ですし　だからすべてがわかりやす

く理想通りという風に世界は成り立っていないわけです　私はそれを身をもって感じるわけなのです　私はそうゆうものなのです　先ほど言ったように妖精さんたちはここで出される湧き水を飲みませんし　ここに長居することを嫌っていますし　男の子の妖精は得体の知れない私と腕相撲することを恐れています　そして芋料理　この芋を食べるとからだがタンパク質に変化し　急に裸でいることが恥ずかしくなり　服を着たくなり　肉肉肉　にとりつかれて　死ぬ　のだと　もうこれはコボルトさんの死体発見により事実ということになっています　私の家のパーティーはひどくぎこちないものです　洋服の話と同じように妖精さんはたんぱく質でできていないから食べなくても全然平気なのです　食べることは　パーティーだから　おいしそうだから　ということしかないのです　お腹が空くことはないのです　でもパーティーでは食べることが主役のようなものですからそれがないとかなり手持無沙汰です　もう私をホストの順番に入れてくれなくてもいいのに　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　ということかもしれません　だけど私は思うのです　本当は妖精さんだって　タンパク質でできているのではないかしら　本当は妖精さんだって　裸が恥ずかしいのにやせ我慢しているのではないかしら　本当は妖精さんだって　お腹を空かせているのではないかしら　本当は妖精さんだって　夜な夜な取っ組み合いの交尾をするのではないかしら　本当は　妖精さんだって　死体があるのになかったというようにどうにか消しているのではないかしら　それらをひた隠し　だからこそ余計に私のことを　敏感に攻撃をするのではないかしらと　だけど　そんなことはないのかもしれません　ただの私の妄想　思い過ごしかもしれません　知られていることは　妖精さんはやさしい心が大好きよ！　ということだけです

3　モグラ

モグラ、登場。

ユリエリア　あ

モグラ、カルパスを持っている。

ユリエリア　お前　なにつけてんだよ

モグラ　……
ユリエリア　目ないからいらねえだろ
ユリエリア、モグラのサングラスを取り放る。
モグラ　あ
ユリエリア　またカルパスかよ
モグラ　……
ユリエリア　お前いまなんつった?
モグラ　なんも言ってない
ユリエリア　屁なんかこいてねえ
モグラ　ごめん　そんなこと言ってない
ユリエリア　あ?
モグラ　ごめん
ユリエリア　くやしくねーのかよ
モグラ　え
ユリエリア　こんなもんばっか食ってるから口くせーんだよ

モグラ、気にする。
ユリエリア、モグラをツルで攻撃する。
なにかロマンチックな音楽が流れる。
モグラ、音楽に合わせてゆれる。
音楽消える。

ユリエリア　なんかさ　すっごいおそろしいなんか　え　あれは　なんか　が最近この辺を暴れまわってるんて　めっちゃこわい　はさみが生えてて　なんかすっごいよ　なんでも切るんて　ちょっきーん　てめっちゃこわくない?　私の洋服をずたずたに切り裂くかもしんなくない?　だって　なんかめっちゃエロいらしいし　ほんとすっごいよ　すごくて　なんか　え　あれ誰やったっけかな　うんと　誰から聞いたんやったけな　あの　ああああああピンクリンがやられたって言ってたわ
モグラ　ぴんく
ユリエリア　ピンクリンやん　とぼけんな　こないだもさピンクリンのこと話したし
モグラ　ああ　なんか顔がムカつくとか　そのぴんく
ユリエリア　ああ　そうそう　それよ　お前の顔もむかつくけどな　でも　ピンクリンなんて妖精やん　あいつら恥ずかしくないから良いけどさ　つーか　洋服

モグラ　切り刻まれて　笑ってたらしいし　やばくない？　ひくわ

ユリエリア　なんで

モグラ　なんか　楽しかったんやない　妖精って　恥ずかしいとかないから　やばいやろ　私ハーフやん　恥ずかしいし　なんかさ　しかも　めっちゃくさくて　ガスみたいなんをお尻から　口から　鼻からも　出してて　めっちゃいやらしくて　黄色い膿がなんかかたまってたりして　ほんとなんかとにかくすっごく汚い　すっごい　いやらしい　本当にやばくない？

ユリエリア　……

モグラ　きいてんのかよ

ユリエリア　また出かけてくるわ

モグラ　ん　いってら　あ　あんさ　なんかチーズ食べたいわ　1P　借りてきて

ユリエリア　わかった

モグラ、退場。

ユリエリア、ではけ口から靴を取り出し穿く。背中の羽（ストッキング）を外す。髪をほどく。白目をむく。（ユリエリアから女への変態）

4　極楽浄土を目指す女

女、中央に立つ。

女　先日はありがとうございました　たまりにたまった全身のコリと疲労を丁寧にほぐしていただきました　なにより次の日のからだの軽さにおどろきました　足裏の際には腸や肝臓が疲れていることを教えていただきましたたしかに連日飲み会続きで　ごりごりと強めに押していただき痛かったのですがその分ききました　先日はありがとうございました　からだ全身が重く　張りもあり　足はむくみ状態でしたが　残業で閉店間際の来店になってしまい　時間がなく仕方なく足裏のコースだけお願いしました　あまり日本語が通じず接客はイマイチということで星ひとつマイナスさせていただきました　すみません　ですが技術は確かです　帰りの電車の中で頬がぽっとピンク色に上気し　あたまがぼーっとしていまい　最寄り駅から一つ乗り過ごしてしまいました　そのくらい血行が良くなっているんだと実感しました　呼吸もいつもより深くなりました

問。

女

マッサージ店の口コミを読むと　読むだけでマッサージを受けたような気持ちになり　マッサージが受けたくてマッサージ店を探してて　参考にするために読んでいたのに　もう本当にマッサージには行かず　この口コミとセルフマッサージだけで　ひとり満足して眠ってしまったりするのです　もう揉むだけに飽き足らずお灸さえ据えてみようかと思っている今日この頃です　エロ本と中学生　口コミと私　だけどやっぱり口コミをおかずのセルフマッサージにも限界がきていました　私にはもっと刺激が必要でした　そう今日こそはプロの手で揉まれよう　マッサージへ行こう

問。

女

雑居ビルの階段を私は登っていました　エレベーターは故障中でした　お好み焼き屋　中華料理　まつ毛エクステ　キャバクラで働く女性のための美容院　フィリピンパブ　少し性的なオイルマッサージ屋さん　とそして私の目指す台湾式足裏マッサージ「極楽浄土」があるのです　「極楽浄土」は口コミの数も少なめ　満点をつけている人はおらず　全体的に星の数もまあパッとしません　しかしなんというか　なんといえばいいのか　私は淫靡と言いたい　淫靡な光を放っていました　日々の生活に疲れた女性たちが口コミをしているのです　彼女たちは日々なにかやらなければいけないことがあって疲れています　営業の外回り　デスクワーク　子育て　家事　世の中で生きるために必要だと思わされている一連の行動に追われているのです　そんな彼女たちがここではわがままに不満を漏らすのです　素直に気持ちよかったというだけの人は一人もおらず　もっとできる　ここが違う　私はこうしてほしいのよ　と言います　星の多い　満点ばかりの　彼女たちに満足だけを与え　気持ちよかったと言わせるだけの　マッサージ店より　不満足を与えて　わがままを言わせるこの店のやり方に私は虜になり　それらを背筋をぞくぞくさせながら読みました　向上心旺盛なカップルのピロートークのようです　星をひとつもつけない人は私にはどうも気持ちよすぎてしまいました　と気持ちよかったのに不満を言っています　なんというわがままでしょう

女、口をぱくぱく開閉する。

女　だけど私は見えないものです　見えないことにされてしまうもの　見えないことにされるということはもう見えないと同じことなのです　みなさんスーパーマーケットお肉売り場にて　大学卒業後　就職することなく大学で知り合った旦那様と即結婚　花柄のエプロンを付けパーマネントをあてたピンクのチークの生まれて死ぬまで旦那さん一人しか男性を知らないで死んでいく新婚の奥様が買い物をしております　そんな人間は本当にはいないかもしれません　しかしいると仮定してみましょう　本当はどうかという話ではありません　その奥様が　今日はすき焼きにしようかしら　とスーパーでお肉を見ている　そこに　牛の大きな目玉や便が見えますか

　　女、舌を出す。

女　そんなものが見えてしまう世の中はどうでしょうか　暮らしづらいですね奥様　それでもすき焼きつくれるでしょうか　私はそんな　見えてはいけない　見えないことにされる　つまり見えないものなのです　だから「極楽浄土」でも私は見えないのではないかという不安がありました　でも一般的な満足を与えるマッサージ店ではありません　あの淫靡な光を放つ「極楽浄土」ならば　「極楽浄土」ならば　と私は口コミだけで私の中で私の「極楽浄土」をつくってもうそれは完全に特別でした　だからきっと大丈夫と自分に言い聞かせて　脇を汗で濡らしながら　階段を一歩一歩上っていたのです　「浄土」とは浄化の浄に土とかきます　「極楽」は極めて楽しい　汚いものを取り除かれたほくほくの柔らかい土やこの上ない楽しさがこのかび臭い階段を上って行けば待っているのでしょうか　そんなところこの世にあるでしょうか　「浄化」は汚い不純な不必要なものを取り除くということです　私はその取り除かれる側のものであるから　極楽浄土のために取り除かれた　汚い不純な不必要なものの行き先のことが気になってしまいます　取り除かれたものだってそちら側の時間がありこの世に存在しているのですから　都合よく　きれいさっぱり消えるなんてことあるわけがないのです　ただ移動するのです　その移動先でまた　こんなものいらない　どこかにいけ　という扱いを受ける　ずっと肩身が狭い　居場所がない　一時的な居場所をみつけたとしても　きっとそれもそのもののためになにかが無理をして犠牲になって生まれる居場所であるから　またそこで汚い不純な不必要だと言われるものは生まれ　その連鎖は止まることがない　極楽浄土と同時に汚い不純な不必要なものも生み出されているそういうずっと移動のことです　ああ　暑い　もうすぐ　もうすぐ　八階です　八階に私の「極楽浄土」が

モグラ、舞台袖から舞台上を覗く。
女とモグラ、目と目が合う。

女

七階と八階の間の踊り場　壁に割れ目があります　その割れ目からモグラが私のことを見ています　こんなにもなにかと目と目が合うのは初めてのことです　モグラのような生き物には私のような生き物こそはっきりと見るのかもしれません　モグラの目は光ではなく闇を見るものだからです　光ではなく闇をつかって私を見たのです　そしてまたモグラを見ることができるのも私のような人間だけです　私も闇を見るからです　だいたいの人間はモグラに見られていることに気付かずに生きて　気づかないまま死んでいきます　光を見るからです　私たちは　お互いを見ることができました　結果七階と八階の間の踊り場その隙間の闇にすっと落ちるように目が合ったのです

モグラ、登場。机の方へ行く。

女

誘われるままに壁の中に入っていくとそこは滑り台になっておりました　飛行機に乗ると最初に非常時のことが映像で流れるかと思うのですが　そのなかで機体から空気で膨らんだ滑り台が出てきて乗客が手を上げしゅーって滑って避難する様子がありますよね　そのような空気で膨らんでいるような滑り台が壁の中にあり　いままでせっかく一歩一歩上ってきた階段をしゅーっと滑らされるわけです　ああ　せっかく上ってきたのにと思うのですが　こんなにも爽快に滑らされては仕方ない　気持ち良いと思わされます　もう落ちるところまで落ちたいとさえ　そして　たぶん一階よりももっともっと下の地底へ先ほどの階段よりもさらにかび臭い「極楽浄土」とは程遠い　地底へ　地底へ　と行かされたのでした　モグラは地底でどでおりました　目標にしていた「極楽浄土」に私はたどり着くことができませんでした　「極楽浄土」だって口コミサイトの中では公式でない空気を出した店なのに　やはり口コミサイトに載っているというのだかられっきとした公式だったのです　淫靡とはいえ光を放っていたのです　私には無理でした

女、仰向けに机の上に横になる。靴を脱ぐ。
泥、落ちる。

モグラ、着ぐるみから人間の男の手を突き出しその手で泥を女の脚に塗る。

女　モグラのマッサージは泥をつかいました　泥といいますとナチュラルなイメージがあるかもしれません　一般的にエステでつかう泥はミネラルを多く含み　毛穴の汚れを落としたり美白や保湿や炎症をおさえるというような効果があるようです　しかしここでつかわれる泥は雑居ビルの下の土からつくられた泥です　ミネラルなんてそんないい成分が含まれているわけありません　余計に毛穴は汚れ肌はどす黒くなり乾燥してカサカサになりかぶれるのではないでしょうか　野菜もなにも育たないような浄土とは程遠い汚染された都会の土では

モグラ、女の脚を揉む。

女　しかし　浄土ではないけれど極楽ではありました　私は楽しくなっていました　解放されたような気持ちでした　私を苦しめていたのは　口コミでした　自分でも気づかないうちに喜ばせていた半面私は苦しめられていたのです　たくさんの声に　私は「極楽浄土」に行きマッサージを受けあの疲れた女性たちのように自分も口コミを書くことをもうマッサージを受ける前から考えていました　誰に頼まれたわけでもないのに　誰が読むともわからないのに勝手に私のマッサージは私のものだけでなくなって私は表現というものに苦しめられていたのです　勝手に自分で自分の首を絞めていたのです　だけどここは口コミサイトに載ってない場所　口コミをする必要はありません　表現の必要はありません　このマッサージは私だけのものなのです

女、叫び果てる。ゆっくりと仰向けからうつ伏せに回転し、立つ。

間。

女、髪を結う。羽（ストッキング）を付けようと羽（ストッキング）をはためかせる。（女からユリエリアへの変態）

暗転。

モグラ、暗転退場。

暗転中、録音の音声。

【彼女の言うように誰にも表現をする必要がない状況で　あんな顔は生まれるのかしら目のない世界で自分の顔の筋肉の動きだけがあるのです　それでもあんな表情が産まれるのは顔が顔である以上　そして私が見ている以上　そう在ってしまうものなのかもしれません】

５　ふり

ユリエリア

どう　モグラはこうやってお金を稼いでいるのでした　私はモグラの秘密の部屋の存在をとっくの前から知っており覗き見することを日々の退屈しのぎにしていました　妖精さんはお金を稼いではいけないという決まりがあります　必要なものは人間から少しだけ借りるのです　妖精さんは小さいから少ししか必要ありません　チーズだって６Ｐチーズの１Ｐあれば妖精さんにとっては五十人分くらいなの　つまりここにいまいるみんな分ってことね　あなたのお家で６Ｐチーズが１Ｐなくなってたらそれはユリエリアの仕業だと思ってね　モグラは私の前では借りてきたふりをしてすべて買っていました　なんか　あの　棒の　肉　食べてたじゃん　なんだっけカルパス　ね　食べてたじゃん　いっつも食べてんだけど　あれ　どうせあれも買ったもんなの　だってそのほうが楽じゃん　みんなわかんないっしょ　借りるという行為は人間にみつからないように慎重に動かなければいけないからとても大変なの　モグラはお金を持っているから買うわ　買うっていうのはコソコソしなくていいのよ　お金を持っていれば堂々とできるわ　コソコソどころか威張れるの　売っている側がなんだかコソコソヘコヘコしてくるわね　私はお金を稼いではいないけどモグラの稼いだお金で買ったものを使っているわ　私は買ってきたものだと知っていながら　知らない「ふり」をして借りてきたものだという「ふり」でつかっているの　モグラはお金を稼いでいることを私に隠しきれていないの　というかモグラも隠している「ふり」をしているの　コンビニのレシートや小銭なんかの証拠をよくテーブルの上に置いているわ　うっかりちゃーん！という「ふり」をして私に見せているの　そしてマッサージも私に見られてしまったという「ふり」をしてモグラは見せているの　モグラのような生き物が見られていることに気付かないわけがないのですから　モグラは俳優　そしてあの女性も俳優だったのでしょうか　あの顔は私に見せていたのかもしれない　という私も　モグラが見せていることに気付かない「ふり」をしてこっそりのぞき見している「ふり」をしています　本来なら単純な見せている　見ているという関係なのに私たちはそこに「ふり」というものを挟まなければいけないのでした　モグラは純粋な親切で私のことを援助している「ふり」をして私の　肉肉肉　に欲望しているから優しくしてくるの　この世に純粋なやさしさなんてないのよ　みなさんにも心当たりがあるので

はないでしょうか　私はモグラの肉肉肉への欲望に気付かない「ふり」をして援助されているの　モグラなんていやらしい生き物と交尾をしたらそれこそ妖精界から破門されるに違いないわ　だからモグラの前ではわざとガサツな「ふり」しているの　援助されるのも大変よ　疲れちゃうわ　ため息出ちゃうわ　はあ　あ　おならは出ないわよ　どう？　私の地底での暮らしはこのたくさんの「ふり」と「ふり」によって成り立っています　「ふり」をやめたら私の暮らしは終わってしまうのかしら　この世界は壊れてしまうのかしら

6　女児たち

俳優A、それぞれの人形を女児1と2の役の器として操り演じる。
人形を二体用意する。

女児1　問題です　私今何を考えているでしょう
女児2　え　なにかしら
女児1　決まっているではないのよ　もちのろんで遊のことだわ
女児2　おママレードボーイね　おママレードボーイのことなんてそんな当たり前のことをわざわざクイズ形式で尋ねる必要ないでしょ　そんなの私たちのデフォルトなんだから
女児1　一本とられたわ　悔しいような気がするけどそんなにむきになるあなたのほうが愚かってことにして　私が勝ったことにするわ
女児2　負けることより　負け惜しみすることが一番恥ずべきことである

間。

女児1　ねえ　どうして　兄妹は恋に落ちてはいけないのかしら
女児2　やだわ　すっとぼけ
女児1　すっとぼけているんじゃないわ　私はもっと深いところで　この質問をなげかけているのよ　そうね地下三階くらいは　深いわ
女児2　ふっ　すこしかまかけただけよ　すぐむきになるのね　あなたの投げかけはわかるわ　コミック第八巻一二九ページを参照してみましょう　「もの

女児1　すごく辛くてくるしいことだと思う　子供は作れないし」　と兄妹同士の結婚について遊は光希に言っているけれど子供をつくってはいけないのはどうしてだと思う？
女児2　私　先日その問題について児童館の図書室で調べたんだけど　参考になる資料はなかったわ　だからいとこのお兄さんに尋ねてみたわ　なんでも血がつながっているかららしいわ　血がつながっている者同士でさらに血のつながっている人間をつくることは世の中的によくないということになっているそうよ　血が濃厚になりすぎちゃうのよ　生き物って自分とかけ離れた生き物と子供をつくるのが良いそうなのよ　そうすれば強い生き物が生まれるそうなのよ
女児1　ごめんなさい　そんなこと知っているわ　じゃあ強い生き物を産むということを私たち考えて生きていかなければいけないの？　弱いってそんなにも悪いことなの？　強いってどういうことなの？　どうしてそれならば兄妹を好きにならせたりそんな意地悪なことを神様はするのかしら
女児2　うーん　そうね　きっと妖精さんのいたずらではないかしら　ウィリアム・シェイクスピア『真夏の夜の夢』でも妖精がなんだかひっかきまわすでしょ？　喜劇よ　御存知？　おママレードボーイだってコメディだと吉住先生は言っているわ
女児1　私はこの問いを妖精さんのいたずらで片づけてしまいたくないの
女児2　うーん　そうね　それにしてもあの両親たち変だわ　常識がなさすぎよだから私後半から少し冷めてしまったの　あんなのあり得ないことよ　非常識な親を持つと子供が困るのよ　しっかりしてほしいわ
女児1　え　それは妖精さんのいたずらで片づけてしまいましょうよ　おママレードボーイはコメディなんでしょ　少々おかしな人がいた方が面白いものなのよ　そこは目をつむってクールに楽しみましょうよ　そうクールに　そうスーパークールにね
女児2　少々おかしな人がいたほうが面白いって言うけど　昨日隣のクラスの桃子さんが下校中にハサミをもった何者かに洋服を切り刻まれたそうよ　とーっても怖かったって言っていたわ　そんなおかしな人のこともあなたは面白いってことにしてしまうの
女児1　まあ　桃子さんが！　かわいそうに　物騒な世の中だわ　私たちも気を付けましょう
女児2　そうね　でも桃子さんは特別かわいいから狙われたんじゃないかしら　同じ子供だけど私たちにも桃子さんと同じように洋服を切り刻む価値があるかは別よ

間。

女児1　正直に告白するわ　桃子さんは怖かったたって言ってたけど　その顔に少し優越感の影を感じてしまったわ　そして私は劣等感を持ったわ

女児2　あなた正直ね　わかるわ　ねえ　桃子さんは　洋服を切り刻まれただけだったのかしら　それ以上の

女児1　やめて　ごめんなさい　自分からこの話をしておいて悪いんだけど　なんだか気分が悪いわ　この話は金輪際してはならないことにしましょ

間。

女児2　現実のおかしな人は困る　しかし　おママレードボーイのなかなら面白がれる　というまとめにしておくわね

女児1　それでいいわ　ねえ　光希が遊に二万七千円もする腕時計を贈ったでしょコミック第七巻一六三ページ参照　光希への思いを絶つために京都に行ったのに遊は光希からもらった腕時計を愛用していたのよ　腕時計なんて手首にまきつけて一日に何回も時間を確認するために見るでしょう　もうそんなんじゃ思いなんて断ち切れるわけがないでしょ　むしろ光希への思いにまるで時間のように縛られたいみたいだわ　結局この二人は本気で思いを絶つ気なんてないじゃない　その解釈ならば　そんなただの恋愛プレイに私は付き合っていられないわ　たとえどんなに私が暇でもね　そしてもうひとつの解釈は時計が二万七千円する高価なものだとわかって愛用していたというものよ　誰だっていいものを身に着けたいはずだわ　高い時計を箪笥の奥にしまっておくのももったいない　かっこいい時計だからつかっちゃおう　という解釈ならば私の遊への思いは少し覚めてしまう

女児2　はあ　あなたのおしゃべりつまらないし低俗すぎて付き合う気にはなれないわ　私が面白いと感じていたのは私たちは強い生き物を産むってことを考えなければいけないのかという問いだったの　どうしてあんなにも光希と遊は苦しまなければいけなかったのかしら　血のつながりはなかったとわかるまで二人はとても苦しむでしょ　なんのために苦しんでいたの　最終的になかったとわかると一気にハッピーエンドでしょ　血のつながりがあってもハッピーエンドを迎えることはできなかったのかしら　コミック第八巻一二八ページで「常識やモラルなんてお前のためなら破ってやる！」って遊は言うけれど結局　血はつながってなかった　よかったね　ではこのお話は常識やモラルなんて破ることができていないのよ　がちがちだわ　がちがちのまま終わったわ　そんながちがちを私は楽しめないわ　自

女児１　分とかけ離れた生き物と子供をつくるのが良いというのなら　もういっそのこと人間ではない生き物と交わってみたりなんかしてみたらって思うのだけどどうかしら？　例えばモグラなんてどう？

女児２　モグラ？　それは無理よ　違う生き物同士では生き物をつくることはできないのよ

そんなこと知っているわ　でも　もっと言えば私たちは生き物を産むということをそんなに考えて生きなければいけないの　そういうがっちがちがなくなるとどうなってしまうの

俳優Ａ、途中から女児２の人形を放棄。
以下、女児１は人形を器とし女児２は俳優Ａの身体を器として演じる。

女児１　この現代社会生き方は様々よね　個人の自由で選べるのよ

女児２　なんだかニュアンスが違うわ　そういう意見も私はがちがちに聞こえるの

女児１　あなたの言うがちがちがなくなるっていうことをあまりイメージできないわ　人間は人間に産まれた限り人間の範囲のなかにいるのでは　仕事　結婚　出産　子育て　老後　人生について考えることからは逃れられないの

人間だもの　あ　あいだ　みつ

女児２　やめて！

女児２、女児１の口を手で塞ぐ。
女児１、その手をゆっくり払いのける。

女児１　子供を産むってことは考えるもなにもすべての行動の源よ

女児２　それならば　私たちはどうして松浦遊が好きなの　だって松浦遊は実在しない　おママレードボーイという　漫画の中の男子だもの　おならだってしない　漫画の男子　つまり生き物ではないものと生き物をつくることなんて不可能じゃない　私たちはなんのために松浦遊が好きなのかしら　私たちはなにをしているのかしら　コミックを全巻集めて

俳優Ａ、途中から女児１の人形をも放棄する。
以下、俳優Ａの身体を女児１と２の器として演じる。

女児１　告白するわ　私　遊の手が光希の腰にまわっていたり　抱き合っていたり口づけをしているシーンを読んでいるとき　自分で自分の

女児２　言わないで　わかるの　私もだから　私たちは松浦遊が好きよ　とてつも

なく　だけど私たちは人間なのよ　松浦遊ではなくて　ハサミを持った変態と同じ生き物なのよ　私たちは松浦遊ではなくて　ハサミを持った変態と子供つくる生き物なのよ　私たちは人間なのよ！

7　おまじない

ユリエリア　はーい　どう　では気を取り直して　皆さんお待ちかねの　おまじないの時間です　だいたい妖精さんがおしえてくれるおまじないって恋愛のおまじないばかりなの　全体の確率で言えば　九八パーセント恋愛のおまじないなの　残りの二パーセントがそれ以外の　健康とか　夢とか　飛躍とか魅力アップ　アップ……　アップップー　あおならじゃないわよ　とかとかなのよ　おまじないって考えるってことだから　つまりは妖精さんは九八パーセント恋愛のことを考えているの　美しくて　暇だからなのだわっていうか妖精さんにとって健康　夢　飛躍　魅力アップ　と言ってもそれらも全部元をたどって行けば恋愛につながっているわ　モテたいってことでしょ　だから一〇〇パーセント恋愛のことを考えていると言っても過言ではないわね　パーティーのとき　ハーモニアはいま　おまじないのおかげで彼と熱々だなんて話があったけど　熱々ってそれはつまり交尾をしているってことではないかしら　熱々って具体的にどうゆうことなのそうなのよ　それってタンパク質のことではないのかしら　肉肉肉　妖精さんは交尾をしたいのではないのかしら　そうでなくて恋愛のおまじないばかりするわけがないのだから　やっぱりね　すっきりね　はーい　ではでは　妖精さんほど美しくて暇でないにしても起きている時間の八五パーセントの時間は交尾のことを考えているそこのあなた　恋のおまじないシリーズです　ぜひ試してみてね　ではでは　おまじないをかける人を一人選びます

ユリエリア、観客の中から一人選ぶ。（以下観客１）

おまじない①

ユリエリア　恋のおまじないパートワン

ユリエリア、観客１を利用しながら。

ユリエリア　彼と私は仲の良いクラスメイト　楽しいおしゃべりをしたり勉強を教え合ったり時には喧嘩をすることも　彼は私のことをどう思っているのかしらただのお友達？　やだやだ　恋人になりたいの！　そんなあなたのためのおまじないです

モーツァルトの音楽が流れる。

ユリエリア　彼を　午後のお茶会に招待します　どうぞ　ここに座って

ユリエリア、観客1を座らせ、向かい合って座る。
雑談。

ユリエリア　今日はヨーロッパの素敵な飲み物をご馳走するわ

ユリエリア、バラ水とダビデの星を用意する。

ユリエリア　そう言って　バラみ　ローズウォーター　と大きなコップを用意しますテーブルの上にはあらかじめダビデの星を描いてね

ユリエリア、画用紙にダビデの星を描く。

✡

ユリエリア　バラみ　ローズウォーター　というのはバラの香りをつけた水のことで恋を芽生えさせる飲み物なのです　作り方はとっても簡単　水のなかにバラを入れておけばいいの　そして六つの三角形（ダビデの星を示し）の真ん中にコップを置きます

ユリエリア、コップを置き、バラ水をそそぐ。

ユリエリア　このバラ水を彼に勧めるわけですが　彼がしぶしぶながらでも飲んでくれればこの魔法はもう成功したようなもの　なにか怪しんで飲んでくれない彼はつまんない男だからこっちから願い下げね　どうぞ

ユリエリア、観客1にバラ水をすすめる。

ユリエリア　いっき　いっき　いっき

観客1、飲む。

ユリエリア　彼が飲み干したら拍手喝采をしてあげましょう　大丈夫？　おなら　じゃなくてゲップしてもいいわよ　そして彼の目をじっと見つめこう言います

ユリエリア、観客1を見つめる。

ユリエリア　あなたがいま飲んだ水は　私が愛の女神と契約を交わした魔法のバラ水でした　私の愛はあなたの内臓の中に収められてしまった　そして　からだの隅々まで吸収されていく　もう私とあなたは永遠に離れられない　さだめ

音楽、止む。

ユリエリア　はーい　こうすれば素敵なカップルになれるよ　でもこんなことをさせてもらえる関係っていうのは　もう割と　もうカップルっていうか　どっちかが押せばどうにかなるって関係よね　こうゆうことができるようになる前段階にいるときこそ　おまじないの力を借りたいものよねえ

おまじない②

ユリエリア　恋のおまじないパートトゥー

ユリエリア、観客1を利用して。

ユリエリア　胸に秘めた思いは募るばかり　でも彼はちっとも私の気持ちに気づいてくれない　私の名前さえしらないわ　そんな片思い中のあなたは　彼とおしゃべりするきっかけができるおまじないを

モーツァルトの音楽が流れる。

ユリエリア　ちょっとこの辺に仰向けで寝てもらえる？　目を瞑っててね　ありがとうまず愛用のリップクリームを用意してね

ユリエリア、リップクリームを用意する。

ユリエリア　毎日つかってるのがいいわ　それを寝ている彼の顔に塗るわけですが　そのとき呪文を唱えてね

ユリエリア、リップクリームを顔に滑らせながら呪文を唱える。

ユリエリア　滑れリプリン　願わくばこのプリプリリップに託し　絹ごしのごとしトーク持ち来たれー　滑れリプリン　願わくばこのプリプリリップに託し　絹ごしのごとしトーク持ち来たれー　滑れリプリン　願わくばこのプリプリリップに託し　絹ごしのごとしトーク持ち来たれー

音楽、止む。

ユリエリア　はーい　こんな感じで本気で唱えることが大事です　すると　彼とおしゃべりするチャンスが訪れるわ　でももしも彼が起きて気付かれちゃったらその瞬間この恋は終わっちゃうから要注意です　でもでも　でもねまず自分自身を磨くことを考えてごらんなさい　お友達や兄弟に思いやりを持つことや　愚痴を言わないこと　自分を磨くカギは身近なところにたくさんあるのです　手をこまねいて見ているだけではいけません　じゃあ　ありがとね　もう座ってもいいわよ

ユリエリア、観客1を退場させる。

ユリエリア　バイバイ

観客1、座る。
ユリエリア、座ったら急に真顔になる。

おまじない③

ユリエリア、スイートポテトを口に咥え、画用紙に蝶の絵を描く。
蝶の絵の上でスイートポテトを動かした後、口の中に含み少し咀嚼する。
ポケットからハンカチを取り出し広げ口の中のスイートポテトをその上に吐く。
それをきれいに包みポケットの中に入れる。

ユリエリア　はーい　いまのは　残りの二パーセント　恋愛以外のおまじないよ　魅力がアップして　次のステージへと飛躍する　おまじないでした　死体になる前のコボルトさんに教えてもらったの　まず好きな食べ物を用意します　そしてそれを咥えるの　私の場合は　このおならの出ない　スイートポテトだったけど　あなたの場合は　マクドナルドのチキンフィレオなんかでも　ケンタッキーフライドチキンのホットビスケッツなんかでも　バーガーキングのチーズワッパー　ベーコンレタスワッパー　なんかでもいいのよ　そして蝶の絵を描いてね　その上で食べ物をひらひらと舞わせるの　このときになりたい魅力的な自分を想像してね　注意しなければいけないのは　お腹の中の腸の絵は描かないでね　蝶々の方よ　虫の方よ　それから食べ物を口の中に含み一気にペッと吐いてちょうだい　それを大事に持ち歩いたり　一緒に眠ったりするのよ　ぜひあなたも試してみてね　私ユリエリアが想像していたのは大きな羽で羽ばたく自分の姿よ　私の羽ってみんなのように飛べないの　長年の地底暮らしで退化してしまったのよ　いつかモグラのように目も退化して見えなくなってしまうかもしれないわ　だから　目はつかうように心がけているの　それにしてもよく考えてみれば　魅力がアップして次のステージへ飛躍ってどうゆうことなのかしら　みなさんにとってはどうゆうことですか　考えてみましょうよ　おまじないって　考えるってことが大事なのだから　私の魅力がアップして次のステージへ飛躍って　羽がつかえるようになって地上に飛び立つということのような気がしているけれど　それって私の魅力なのかしら　そうなったらほかの妖精さんと同じよね　もしかすると　目がもっと退化して見えなくなることなのかもしれないわ　魅力っていうものがその人らしさっていうことにするのなら　私らしさって　このまま目が見えなくなっていくことよね　そうすれば次のステージへと飛躍することになるのかしら

ユリエリア、あくびをする。

ユリエリア　眠い　一緒に寝ようね（先程のハンカチに向かって）　おやすみ

ユリエリア、横になる。
白幕、ダウン。

8　ハサミを持った変態

白幕に大きく映像が映し出される。

［映像］ユリエリアの夢

ブリーフの男、股間を強調するように腰を動かしながら両手に持ったハサミを見ているこちら側（ユリエリア）に向かって開いたり閉じたりしている。

ユリエリア　きゃー　やめてー　変態

ユリエリア、いつのまにかハサミを手に夢の中のブリーフの男に洋服を切り刻まれているかのように自分で自分の洋服を切り刻む。

白幕、アップ。

ユリエリア　きゃー　やめて　変態

モグラ、登場。
映像、消える。
ユリエリア、我に返り目の前のモグラに抱き着く。

ユリエリア　なんか　なんかなんか　ピンクリンの言ってたなんかがいた　まじ　怖かった　やばい

モグラ、ユリエリアを抱きしめる。

「ブー」

ユリエリア　でた

ユリエリア、おならが出始め止まらない。
モグラから離れおならに急かされるように次の台詞を言う。
その姿はユリエリアではなく俳優Aの身体を器にし、ユリエリア・女・女児1と2の「ふり」をしていた何者かに見える。

ユリエリア　子供の頃　私の家の向かいにはマッサージ屋があったのです　そこにモグラ　がいた　モグラというのは　目がない　だから　私はその按摩をモグ

ラと呼んでいたのです　モグラ　という生き物は　うっかりちゃーん　うっかり　地上で死んでいたりすると　その死体を発見した人は　あ　太陽にあたって死んだのだ　などと言いまるでそれが本当かのように伝わってしまっている　だけどモグラという生き物はよく地上を歩いていて　そのことにだれもあまり気づいていない　モグラは太陽にあたっても死なないだって晴れた日にはよくモグラはマッサージ屋の前のブロックの上に座ってカルパスを食べていました　モグラは肉食です　しかも大変な大食漢で常に何かを食べている　胃袋から食べ物が消えて十二時間経つと死んでしまうのですから仕方がありません　まさに生きるために食べているのです私は　カルパスを食べながら日光浴するモグラの前を通りかかりながら確かに　確かに感じていました　モグラが私を見ていることを　モグラは私の肉肉肉を揉みたがっている　そのことを思うだけで　私は乳首をピンと立たせてしまう　私はハサミで洋服を切り刻まれました　犯人は最近女子たちが噂していた変態　夕方の住宅街にはつきものです　という　ふりをして　私は息を切らして念願のマッサージ屋に駆け込み　泣きながらモグラに抱きつくのです　モグラは困りながらも優しく私を抱きしめ　やさしい　モグラの按摩さんという　ふり　をして　その皮の下のオスの欲望をたぎらせています　私は被害にあった純粋無垢なまるで可憐な少女というふり　をして　モグラにしがみつき　わからない　ふり　をして　本当はモグラの皮の下のオスにしがみついていました　だってモグラの皮の下の硬い　カルパスのような　肉が太ももにあたるのです　でもそのカルパスにも気づかない　ふり　をします　ああ　私の乳首が　また　ピンと立ってくる　モグラだって　感じているはず　モグラのような生き物が　気付かないわけはないのですが　モグラも　それには気づかない　ふり　をしています　そんな　無数の　ふり　と　ふり　がこの抱擁を成り立たせていました　ああ熱い　その抱擁のさなか　私の脚には　熱い　血が　つー　っと伝ってきてしまいました　どうしよう　どうすればいいの　この血は止めることができない　きっともうこれから何十年も止めることができない　始まってしまった　ナプキンの使い方を覚えなければいけないタンポンはすこしこわい　と　血を　漏らす私を　モグラは施術台のベッドに横たわせ　私のために電気を消しました　その暗闇の中　血を漏らしながら　私はモグラに肉を揉まれることを待っていました　暗闇の中　暗闇の中　しかし　目が覚めるとそこは　いつもの自分の部屋だったのですもしかして　あの抱擁は幻だったのでしょうか　血は幻ではありませんでした　やっぱり血が出ていました　そんな風にして初潮を迎える私ですから　私は被害にあったりすることへのあこがれ　モグラのような生き物へ

の興味　友達には言えない願望　を確かに持っていたのです　それは私が本当には洋服を切り刻まれない子供だったからかもしれません　目のある世界　目のある世界で　私は見られない子供だったのです　私の友達といえばママレードボーイという少女漫画に出てくる　松浦遊　というちょっと意地悪だけどさわやかなイケメンに恋していました　みんなの目は松浦遊を見て　次々と初潮を迎えていくのです　漫画が温かい血を流させるのです　私も夢中な　ふり　をして　目のある世界では松浦遊を見つつ　本当に見ていたのはモグラでした　モグラの皮の下のオスでした　そんな私はいない　ふり　をして私は生きてきたのでした　次の朝　マッサージ屋の前には白いシーツがはためいていました　そこには赤黒い染みが薄っらとあり　ああ　やはりあれは幻ではなかった　ああ　あの染みは私の血私の血　モグラが流させた私の血　はためくシーツのむこう側　目のない世界から　モグラが　私をしっかりと見ています　こんなにもなにかと目と目が合うのは初めてのことでした

爆発音。

芋が天井から落ちる。

ユリエリア、モグラのお腹にあるジッパーを下げる。
モグラの着ぐるみの中から夢で見たブリーフの男が出てくる。
ブリーフの男、両手にハサミを持っている。

ユリエリア　きゃー　や　やめてー　変態

ブリーフの男、なにもせずに立っている。
ユリエリア、ブリーフの男の手を持ちまるで襲われて抵抗しているかのように自らを襲わせる。

ユリエリア　やめてー　やめてー　やめてー

暗転。

9　飛躍

劇場のすべての照明が点灯する。

俳優B、モグラの着ぐるみを持って退場。
ユリエリア、倒れていたところから起き上がる。
目が見えなくなっている。

ユリエリア　ここは　どこかしら

ユリエリア、ポケットからハンカチを取り出す。

ユリエリア　おまじないがきいて　魅力がアップして次のステージへ飛躍したのかもしれないわ

終わり。